



宇宙開発技術者から話を聞く生徒たち=浦安市立日の出中

浦安・日の出中

卒業生が職業紹介 JAXA技術者や裁判官

「夢や目標持つて」と

働くことについて考えて、もうおうと、浦安市立日の出中学校(寺尾里代校長)で、同校出身のOB・OGや保護者らを講師に招いた。宇宙航空研究開発機構

(JAXA)の技術者や裁判官ら23人の多彩な人材が集まり、1年生約200人を対象に、仕事内容を紹介したり、目標を持つことの大切さなどを語った。

在校生や卒業生の保護者

らが中心となって地域ぐるみで学校を支援している「日の出サポートーズクラブ」が企画・運営。キャリア教育授業が開かれた。宇宙航空研究開発機構

ア教育は今年で5回目を迎えた。この取り組みは本年

度、文部科学大臣賞に選ばれた。

「働く(はたら)クエスト自分探しの旅」と題し、今年は建築士、発電所技術者、パイロット、医師、化粧品販売、広告、銀行営業、消防士などの職業を持つ卒業生や保護者ら23人が登場。生徒たちは興味のある職業を二つずつ選んで、10人前後のグループに分かれ話を聞いた。

航空会社の調達とパイロットの「授業」を受けた今井柚那さん(12)は「仕事をする上で、あいさつやコミュニケーションが大事と聞いた。今から身に付けたい」。宇宙開発技術者と裁

樹君(13)は「小学校で宇宙について調べたのを機に興味を持った。裁判の話も面白かった」と話した。講師を務めた卒業生の梯白かった」と話した。

友哉さん(29)はJAXAで勉強しろと言うのではなく、将来何をしたいかを考えながら行動してほしいと語った。子どもたちには語った。

東葛●京葉 クローズアップ

パイロットや裁判官、宇宙開発技術者…

昨年12月の土曜日、市立日の出中に1年生約200人と保護者らが集まつた。授業「働くはたら」クエスト「自分探しの旅」が開かれる日で、同校が取り組むキャリア教育の一環だ。総合的な学習の時間として2011年度から年1回開催している。

授業の講師は保護者や卒業生、地域住民らで、生徒に身近な大人が仕事を伝えることを通じて地域で子どもを育てようという試み。この日は建築士や公務員、販売員、サッカー選手、パイロット、裁判官、警備会社機動隊員、消防士、宇宙開発技術者ら23人が講師を務めた。東京都に隣接する地域の特徴が多様な職種に表れている。制服や仕事着姿の講師は1人ずつ教室を割り当てられ、希望した生徒10人前後に計2回授業を行つた。黒板やプロジェクターを使つた職業紹介に加え、自身の経験や失敗談も交え「多くの人の力を借りて成り立つのが仕事」「ありがとう」と言

子たちが自分の生き方や将来の仕事をについて考え、社会で自立する力を養うキャリア教育。職場体験や進路指導などさまざまな形で行われているが、地域と学校が連携した取り組みも各地で広がっている。保護者と住民を中心とした独自の授業を行う浦安市の中学校を訪ねた。

浦安・日の出中

パイロットの仕事を、制服姿で説明する保護者の男性=浦安市立日の出中

身近な大人がキャリア教育

う同クラブ代表鈴木千250人以上育成、認定した。春さんは「失敗を恐れない、失敗しても大丈夫と伝えることを大切にしている」と話す。代表理事は「学校は社会から「仕事のやりがい、厳しさ」に関する質問も多く、講師は子どもの地域の歴史や産業、働く人に触れ、会と分断されがちだが、何を伝えるべきか経験を振り返つて考える。るものを見直して力を授業ごとに質疑の方法出し合い、子どもが生などの工夫を重ねておき方を選択できるよう今後は1次産業の道筋になること」が大切」としている。

地域色授業に活用

「苦手なことより、好きなことを考えて将来をイメージしてみよう」など、アドバイスをおくつた。企画、運営したのは在校生や卒業生の保護者らでつくる「日の出」だ。これまでつても教諭の負担を減らすため、中心的役割を担つていている。議会」は昨年8月まで半年以上前から授業の準備をしてきたとい

文部科学省は13年度から、小中高校と地域を出前授業やインターネットでつなぐため、アドバイスを始めた。キャリア教育支援協議会を、都道府県などの会を、都道府県と地域レベルで設置するよう



人切に